

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 26 年 5 月 22 日(木) 15:30 ~ 16:30 第一会議室・企画展示場

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶 — 須藤健一（館長）—

2. ニュースリリース — 池谷和信（広報企画会議長）—
●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

3. 音楽の祭日2014 in みんなく

詳しくは
こちら

1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。それは、今、世界各地に広がりつつあります。日本でも、その趣旨に賛同する人びとの呼びかけで、2002年から「音楽の祭日」がスタートしました。音楽の祭日は夏至の前後の日に開催されます。本年度、みんなくでは6月22日（日）に開催いたします。

日時：2014年6月22日（日）
10：25～16：35（開場10：00）

主催：国立民族学博物館

主管／主管：音楽の祭日 日本事務局

※無料観覧日（本館展示場入館は16：30まで）



— 福岡正太（文化資源研究センター・准教授）—

4. 公開フォーラム

ユネスコ無形文化遺産登録記念企画 和食は誰のものか？

詳しくは
こちら

昨年ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」。日本料理のよさが見なおされ、そのよさを保ちつつ発展していくことが期待されます。しかし、和食の「よさ」とは何でしょう？登録された食文化は、家庭料理も含むようです。われわれは、和食のよさを受け継ぐ活動の一翼を担うことになります。文化を受け継ぐために、どのようなことが求められるのでしょうか？

このシンポジウムでは、和食とはなにか、無形文化遺産とはなにかという基本的な点をふまえたうえで、われわれがどのように行動していけばよいかを話しあいしたいと思います。

日時：2014年6月28日（土）13時（開場12時30分）

場所：国立民族学博物館 講堂

主催：追手門学院大学地域文化創造機構機関研究「文化復興と芸術創造に関する総合的研究」

国立民族学博物館機関研究「文化遺産の人類学——グローバル・システムにおけるコミュニティとマテリアリティ」



— 飯田卓（先端人類科学研究部・准教授）—

5. 最新の研究紹介

詳しくは
こちら

「ヨーロッパ人類学の視座—ソーシャルなるものを問い直す」
(森明子 編) 世界思想社

— 森明子 (民族文化研究部・教授) —

「知覚を刺激するミュージアム 見て、触って、感じる博物館のつくりかた」
(平井康之/藤智亮/野林厚志/真鍋徹/川窪伸光/三島美佐子 著) 学芸出版社

— 野林厚志 (文化資源研究センター・教授) —

「クジラとともに生きる アラスカ先住民の現在」
(岸上伸啓 著) 臨川書店

— 岸上伸啓 (研究戦略センター・教授 副館長) —

6. 研究こぼれ話 中国雲南省少数民族のキリスト教信仰

5月には文化人類学・中国社会研究専門の准教授 横山廣子がお話しします。中国雲南省の少数民族のなかには、20世紀の初め以来、大半がキリスト教徒になったところがあります。注目されるのは、賛美歌などを中心に、特に最近、歌や踊りが非常に盛んになっていることです。布教の歴史、集団的改宗をもたらした要因をお話しし、民族文化とキリスト教が結びついたとも言える歌や踊りを動画によって紹介します。

— 横山廣子 (民族社会研究部・准教授) —

7. 企画展 みんぱくおもちゃ博覧会 —大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』

詳しくは
こちら

本展示は、平成25年に大阪府より当館に寄贈された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」を用いて企画したものです。本コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しており、国内の玩具コレクションのなかでも大規模なものとなっています。

本展示では、ブリキ製玩具、ボード玩具(盤上玩具)、マスコミ玩具、カード玩具(絵札玩具)の4つのコーナーから近現代日本の世相を概観していきます。企画展示場にて今回の解説をさせていただきます。

会 期：2014年5月15日(木)～8月5日(火)

場 所：国立民族学博物館 本館企画展示場



— 野林厚志 (文化資源研究センター・教授) —